

20160918「大遭難」

目標：パウロの遭難のいきさつを知り、神は、人が窮地に陥っているときも着実に救いの計画を進め、遂には私たち自身も救の計画の進展を見られることを知る。

聖書箇所：使徒27：1-44 時間：10分

暗誦聖句：「だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成っていくと、わたしは、神かけて信じている。使徒27：25」

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：遭難の経験を持つ子供はいない。話の筋道は触れなければならないが、現実感のない時間にならないよう、人々の恐怖感と信仰に裏打ちされたパウロの強さの対比に注力する。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	みなは、船で遭難したことはありますか 旅行中に船が嵐に遭ったりして沈んだり、動けなくなって流されてしまうようなことです。 先生は、遭難ではないんですが、アメリカから帰ってくるときに、飛行機のエンジンから火が出て、シアトルに緊急着陸したことがあります。	<ul style="list-style-type: none"> ありません。 遭難って何? 	<p>今まで参加者のそのような話を聞いたことが無いので、無いものとして進める。</p> <p>実話である。その時どんなに不安だったのかを述べて、遭難という事柄の大変さに、子供たちが自分を重ねられるようにする。</p> <p>パウロはコリント書を執筆した壮年の時点ですでに難破を三回経験した(Ⅱコリ11章)と記すが、それについては割愛し、今回の遭難だけに話を集中させる。</p> <p>前回の話からの流れをここで確認する。</p> <p>航路、島の位置関係など図解し、なかなか良い風が吹かなかったなど状況説明すると理解を助けるだろう。</p> <p>船具を捨てる決断がいかにリスクの高いものであるか、考えさせる中で掴ませる。</p> <p>どれくらい嵐にもまれたか、日数を当てさせても良い。ただし、それを必ず子供たちに日常に当てはめて、大変さの度合いを理解させるようにする。食事をその間全くとっていなかったことは、大いに役立つだろう。</p> <p>気持ちを探求させるのは心の成長に大いに役立つので、できるだけたくさん発言させたい。その際、焦点がずれた発言については、状況をより鮮明に説明して同じ質問を問い返し、パウロらの気持ちに極力重ねさせる。</p> <p>21-26節を、子供たちにわかるよう内容をかみ砕きながら、説明(朗読)する。 特に神が大丈夫だと言われたことと、暗闇でパウロの言葉だけが凛と響く状況描写に心を配りたい。</p> <p>遭難の結果どうなったのかを提示する。ローマ宣教に、遭難したことが却って役に立っていく不思議に気付かせたい。</p> <p>留学中、旅行などできなかった私に対する神様からのご褒美と思ったことを記詞する。</p>
課題探究	6分	パウロさんも、遭難したことがありました。 パウロさんがローマ兵数百人に守られながら、ローマに向かった船が大嵐にあったのです。 その嵐は大変なもので、船を守るために、積み荷を捨てるだけではなく、遂には船を動かしたり止めたりする大切な道具まで捨てたと書いてあります。 それでも嵐はなかなかやみませんでした。 みんなだったら、どんな気持ちになるでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> こわい 心細くなる どうもならない 	
まとめ	2分	パウロさんは地中海の船旅を人一倍経験していたので、最初にこの船旅は危ないと警告したのですが、みんなは聞かずに出港したのです。 みんな疲れ切った暗闇の中で、パウロは立ち上がり、言葉を発しました。この言葉が彼らに勇気を与えました。 みんながへとへとに疲れ切っている中、パウロによって神様の声が響いたのは、どれほど心に残ったことでしょう。 パウロが言ったとおり、船の全員は遭難から14日後、マルタ島と言う島にたどり着いたのです。この遭難を通してパウロは、この人には神がついていると言う絶大な信頼を得たのです。 先の飛行機のエンジントラブルでも、結局、お金をかけずに、シアトル一泊旅行ができていました。 イエス様を信じていてもいなくても、悪いことには遭遇します。でもイエス様は救主なので、それを私たちのためになるよう仕向けて下さいます。こんなすばらしい方が私たちについて下さっているなんて、なんと私たちは幸せ者なのでしょう。か。 暗誦聖句		185号のテーマからの反映。